

豊後大分郡津守村の五人組手形

マリオ・マレーガ

差上申五人組手形之事

五人組規則の条文は「統豊後切支丹史料」四百拾九頁に印刷されている。そこには元祿時代のものには条文が全部書かれているが、享保時代のものはその略文だけ書かれている。今度初めて享保時代の五人組規則全部を発表するものである。

元祿時代の五人組規則は綱吉五代將軍の時作られ、特に動物を憐むことについて厳しく定められたが、將軍が代り五人組の規則も亦改められたので、この享保時代の五人組規則が元祿時代のものの次の五人組規則となるわけである。此享保時代の規則の内、元祿時代の規則と同じものは僅しかない。即ち第四条及第九条で第四条は元祿のものゝ第二条に、第九条は元祿のものゝ第十条に当る。

津守村とは現在大分市内となつて居り、元延岡藩に属していた村であつた。

〔表紙〕
享保拾貳年
豊後大分郡津守村五人組御改帳

未

庄屋 彌左衛門
仁助

豊後大分郡津守村の五人組手形

一 当村中五人組之儀被仰付大小之百姓立合致詮議候処背御法度申者無御座候ニ付本百姓之儀ハ不及申上門屋借屋之者并拾五以上之子兵下人等ニ至迄不殘運判仕差上申候事

一 御制札之趣其外御法度之品々彌以堅相守之妻子下人等ニも無斷絶可申渡候事

一 忠孝をなし親子兄弟むつましく可仕候若不屈之者於有之ハ急度可申出之旨奉畏候事

一 切死丹宗門之事累年堅雖御制禁彌以今度当村中御穿繫被仰付候怪敷もの之人も無御座候切死丹訴人仕候ハ其品に

より御褒美可被下之旨御灸目之趣奉畏候事

一 切死丹類族之者迄常々行跡を心付若不審成儀有之ハ早速可申出旨奉畏候

附切死丹本人并本人同然病死早速御役所江致注進御檢使可請之類族違亥之儀是又早速書付可差出旨奉畏候事

一 訴訟之事大庄屋村庄屋方江申出候ハ無滯御役所江可申上候小百姓ハ訴候儀も難成様致なし難儀ニ及候由御聞被成候ハ御詮議之上落度可被仰付由尤出入等内証ニ而相濟候儀

ハ大庄屋村庄屋組頭五人組立合無荷担取扱^{ちら}晦明可申之旨被仰付奉畏候事

附直訴之儀堅仕間敷之旨被仰付奉畏候事

一 盜賊并悪党之訴人仕候ハ、仮親族たりとも其科を御免被成御蔭美可被下候其上悪党之親類縁者^{あだ}を不成^な様ニ可被仰付旨奉承知候縦親類縁者成共盜賊悪党人ニ御座候ハ、無隱御注進可申上候若此旨を相背脇より訴人御座候ハ、庄屋五人組曲事可被仰付候事

一 堂宮并山林ニまきれあるき不兼成もの見出候ハ、捕置御注進可申上候若捕置申儀不相成候ハ、其品ニより人を付先々村江相届候様ニ可仕候見逃聞遁後日悪事^{しゅつたい}出来仕候ハ、越度可被仰付旨奉畏候事

一 従他所村中江越来候者本之里所之能々聞届其所より構成者ニ而構無御座候由手形を取置其上居村庄屋五人組江申置可申候勿論他所より年季ニ召抱候男女之儀ハ委細様子相尋何方よりも構無御座旨構成者請人を為立手形取抱可申候事

一 当村百姓之内身躰不罷成奉公ニ罷出候ハ、^{おろ}落着所を庄屋五人組江申届其上御下知を請罷申可申候尤当村江立帰申候節其主人又は役人より構無之由状を取庄屋組頭致^あ見得御下知置可申候事

一 欠落之者拘置申問敷候并御年貢^か訴訟他所より^お逃散仕候百姓候ハ、縦親類縁者たりとも宿借申問敷候惣而法師^{しやう}虚無僧

山伏行人乞食^{こつじき}非人等ニ至^こ运行衛不知ものニ一宿成共宿借申問敷候其外村中之堂宮ニも置申問敷候事

一 出家山伏行人虚無^こ之所に盗人參候而はかりことを申宿借候事數多有之候惣而行衛不知者ニ宿借不申様ニ可申渡旨被仰付奉畏候猶以かねたき乞食非人又ハ穢多等ニも堅右之趣申付宿致させ申問敷候事

一 牛馬を盗引通躰ニ相見へ候もの有之候ハ、^{とら}埋置御注進可申上候若^{とら}埋置候儀不罷成候ハ、郷^{つひら}先々村々庄屋江斷罷可申候惣而構成者に口入無之候ハ、牛馬賣買一切仕間敷候事

一 当村中ニ耕作商売をも不致其上他所江切々罷越常々^{はん}博焚^んか^きけの勝負を好或宿致不似合衣類を着し不兼成もの有之ハ早速可申上候隱置^と彼^と事^と仕^と脇^とより^と賢^と申^と候^とハ、親子兄弟庄屋五人組迄曲事可被仰付候惣而三四日之^と溜^とニ而他所江罷越候共庄屋五人組江^と可^と事^と

一 御檢地之外落地^あ隠^と田^と切^と開^と又ハ引方之内起^あ歸^と田^と畑^と御座候ハ、急度可申出候事

附田畑少々之所成共荒し申問敷候以^し村中田畑ニも罷^せ成所御座候ハ、得御下知ひらき可申候事

一 田畑永代之^と買^と仕^と間^と敷^と候^と縦^と年^と季^とを^と極^と相^と渡^と申^と候^と共^と拾^とヶ^と年^と不可^と過^と之^と由^と被^と仰^と付^と奉^と畏^と候^と其^と外^と山^と林^と之^と買^とも^と右^と之^と通^と相^と守^と可^と申^と候^と事

一 鶴取候儀堅御停止被仰付奉畏候事

一御公儀御林之儀ハ不及申百姓四壁之竹木銀ニ伐採申間敷候然共家作其外不叶入用之事御座候ハ、得御下知遣可申候事
一村中火之用心大切可仕候若火事出来申候ハ、家別ニ手桶を
持罷出精を入候而火を消可申候勿論御威をかこひ可申候事
附自然火付候のもの有之候ハ、早速搦捕御注進可申上候

事

一御公儀御用何方より申候共不限昼夜町在共早速可相違之旨尤於浦々御用之舟ハ不及申諸廻船共難風ニ逢候時ハ早速引船出之可繕入候若油断之致方有之ハ曲事可被仰付之旨奉畏候事

一御宛物被仰付候ハ、日限時刻を不違精を入相勤可申候其外急之御触状被遣候時ハ夜中風雨之時も不致遅延候様相勤可申候事

一当村中之者不^{みにおうせ}身家作仕間敷候又嫁取薄入ニも乗物乗鞍並刀長脇指御停止被成候其上毛織之類絹布ごろうとう衣裳襪帯等ニも仕間敷候事

一食物之儀耕作之時分ハ各別常ニ雑穀を用米大切ニ可仕候事
一市町ニ出大酒仕間敷候竝往還之通にて^{しんご}喧嘩口論仕出し何ニ而も不作法成儀仕間敷候事

一当村中之者共不依何事御水^{くみ}を吞^{くみ}竝致御文^{しんご}紙一味仕候事致
中間敷候事

一身躰不罷成百姓候ハ、從秋中庄屋五人組見計候而前廉其者

之御年貢可納粗致積を米銀銀ニ為遣申間敷候若其旨を背御年貢納候時彼百姓米銀無之候ハ、庄屋五人組越度可被仰付候勿論御年貢皆不致以前^{しんご}越電仕候百姓御座候ハ、其者之御年貢組中ニ而^{しんご}可申候竝諸役等迄相勤可申候事

一御身之百姓煩無紛田畑仕付候儀不罷成候ハ、五人組之内不及申一村として助合帳而御年貢相納可申候事
彌其組より助合帳而御年貢相納可申候事

一往還之町ハ不及申在々共旅人大切可仕候於途中人馬煩候時ハ庄屋百姓立合可致介抱候煩重り候ハ、御役所江早速御注進可申上候若相果候ハ、早速得御下知其上庄屋百姓立合其者之道具改封を付置可申旨奉畏候事

奉畏候事

一御人存生之内往^{おきん}手形致吟味出所寺承口上誓付置可申旨
一手負之者又ハ人をあやめ候者ハ^{おきん}捍置御注進可申上候其品ニより人を付先々村江段々相届候様ニも可仕候み〇かしニ仕間敷候旨奉畏候事

一大雨ニ而俄水出堤川除^{おし}捍崩候時ハ惣百姓人別川除場所江罷出田地不流候様ニ^{しんご}精を出かこひ可申候并道橋常々無油所作り可申候事

一御年貢割付御出シ被成候御村中惣百姓、小作之者迄不^{しんご}立合無高下割付極月十日以前皆済可仕候并夫錢入用之儀ハ品々を帳ニ付置惣百姓詮議之上^{しんご}銘々判を致置以^{しんご}出入無之様

可仕候若座割ニ不調成分も上納之外差引分少も御年貢ニ割込申間敷候事

一御年貢米納候節赤米あらぬか小米割刻米死米青米小石無御座候様仕儀持入念中札上札さし御蔵江相納可申候事

一御公儀を輕しめ諸事ニ付庄屋の下知を不用事ニも成間敷義を申立友百姓ニ愚事をすゝめ常々公事出入を好剩隣郷迄も

親類縁者ニ組シ致荷担物每正路ニ無之我儘成者有之ハ大小之百姓ニよらす申上候ハ御礼明之上急度被仰付由被仰渡

奉畏候若隱置事出氣仕候ハ庄屋五人組曲事可被仰付事

一御用ニ付御家中衆御出之時ハ所ニ御座候野菜一汁二菜ニ而進上可申候并節句御祝儀と申何ニても毛頭遣申間敷候事

一御免許之外鉄炮堅所持不仕尤他所よりも一切預り申間敷旨奉畏候事

一相撲操見せ物等町在共差置申間敷候事
附祭礼之由ニ而大勢人集他領にも段々送遣儀堅御停止被仰付奉畏候勿論他所よりも請取申間敷候事

一持高拾石以下之百姓分地不仕尤分地之儀ハ御役所江可申上候且又筋目違たる遺跡仕間敷候事

一五人組帳面ニ仕上候印判之外一切用申間敷候若印判紛失仕候ハ代印判御役所江持参仕帳面ニ押之其上ニ而用可申候旨奉畏候事

右之条々少も相背申間敷候若相背申者御座候ハ其者之儀

ハ不及申上庄屋五人組共曲事可被仰付候為後日惣百姓違判仕差上申候仍如件
享保拾貳年未

津守村庄屋

彌左衛門

同 仁 助

同村組頭

御代官様

滝尾組 仁 助

(白杵市祇園洲サンタ・マリヤ教会)

郷土史話

竹田詐つて唐墨を得

ある人が気叶金剛といふ唐墨を所持していた。她が画遊竹田がそれを是非欲しいので度々懇望したがどうしても分けて呉れなかつた。万策盡きた竹田は窮余の一策、其の人の留守を見はからつて其の家を訪問し、細君に、実は先頃墨を半分頂く約束を御玉人として来たのであるから、と言ひながら其墨を折り取つて自分の家を持つて歸つてしまつた。程なく帰つた主人によつてこの事はすぐ露顯した。だが先方も名墨を遊ぶ様な風流人だけに、氣持長く黙許して呉れたとのことである。

(古今趣味の書画骨董所載、立川)